

科目名称	医療安全管理学（医療安全）
授業コード	BA388
英語名称	
学期	2024年度前期
単位	2.0
担当教員	堀 和芳
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	医療安全の基礎的事項に関して、臨床工学技士国家試験、第二種ME認定試験に良く出題される内容を中心として医療事故の事例も交え講義を進める。 実際に病院で起こりうる医療事故や医療機器による事故防止のシステムを講義し、将来、臨床工学技士として従事した際の医療機器安全管理業務の役割を学ぶ 本学科のカリキュラムポリシーである「臨床工学コースに要求される生命科学、工学の知識をしっかりと身につけた人材を育成する」ことを目標とする。具体的には医療機器の特性と人体の特性および人の行動特性を理解し、医療事故を未然に防ぐ洞察力、判断力、技術を修得するための学修を行う。
科目に関連する実務経験と授業への活用	本講義は、臨床工学技士として大学病院、総合病院にて臨床実務、医療機器安全管理責任者を経験し職能団体にて医療機器安全管理委員として活動している教員が講義を行う。 上記のような実務経験を生かして病院の治療中に起こりうる医療事故の実例を挙げながら、臨床工学技士としていかにリスクマネジメントを行うか、ディスカッションを行う
到達目標	科目特有の知識・技能についての到達目標 1. 医療安全の基本的な考え方と臨床工学技士の役割について理解する 汎用能力としての学士力についての到達目標 2. 医療安全のシステム工学をモデルとして、医療事故が生じるメカニズムとそれを防止するためのと臨床工学技士の役割を理解する。 実際の臨床にて安全で質の高い臨床工学技術を提供し、チーム医療の一員として高い人格と倫理感を兼ね備えた、患者のために社会貢献できる臨床工学技士となる。 本学科のディプロマポリシーである生命の尊厳を意識した医療従事者の育成を目標とする
計画・内容	医療従事者として患者倫理の視線に基づき講義を行う 1. オリエンテーション、医療安全とは 2. ヒューマンエラーとは 信頼工学 3. 医療事故の分析 SHELL分析 4. エネルギーと人体の反応 電気、機械エネルギーと人体反応 熱、光エネルギーと人体反応 5. 医用電気機器の安全基準 6. 病院電気設備の安全基準 7. 医療ガスの安全基準 8. 電磁波の安全基準 9. 安全管理体制 10. 医用安全の測定方法 漏れ電流 11. 感染管理

計画・内容	標準予防策（スタンダードプリコーション） 12.災害と安全管理 地震、洪水 停電 13.チーム医療における医療安全 14.事例紹介 15.関連法規 医療法 医薬非品、医療機器に関する法 立ち合い規制 PL法 【本講義を行う実務経験】 大学病院、総合病院にて医療機器安全管理責任者、職能団体にて医療機器安全管理委員として医療機器安全管理およびリスクマネジメント経験のある、担当教員が事故事例を交え、講義を担当する。
授業の進め方	パワーポイントを用いた講義方式に事例を交え、グループワークを行い、ディスカッションを行う。
能動的な学びの実施	事例検討をする際はアクティブラーニングを積極的に取り入れ、理解度を深める。 アクティブラーニングの方法としてはシミュレーション、問題解決学修、グループディスカッションを取り入れる
授業時間外の学修	該当授業回数に記したシラバスの内容について、予習を行う 授業中の講義内容に対し課題が出される（課題作成に要する時間は30～60分）
教科書・参考書	臨床工学講座 医用機器安全管理学第2版（医歯薬出版） 資料は随時配布する
成績評価方法と基準	課題レポートをすべて提出することが前提である 授業態度、課題レポート50%、期末課題レポート50%
課題等に対するフィードバック	課題レポートに対し、次回の講義時に詳細なディスカッションを行う
オフィスアワー	Campus Square参照
留意事項	本講義は臨床工学セミナーにて講義を行う医療機器安全管理分野と体系化されており臨床工学技士を目指す学生は可能な限り履修することが望ましい
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	ZOOMによるオンライン授業または課題授業 授業態度、課題レポート50%、期末課題レポート50%